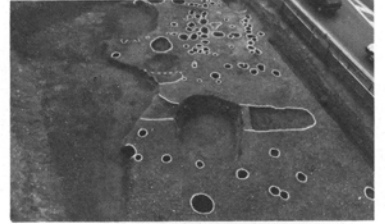


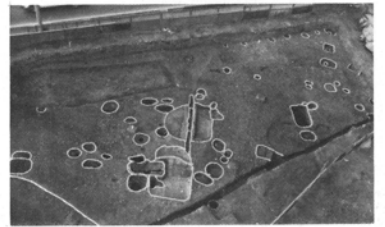
勝 川 遺 跡

勝川遺跡は、春日井市勝川町4丁目、5丁目、長塚町にかけて広がり、庄内川中流域右岸の最も新しい洪積段丘の縁辺に立地する。段丘面上で標高13m、段丘下で標高11mをはかる。勝川遺跡は、当初、古瓦散布地として知られるのみであったが、昭和56年から59年にかけて一般国道（環状2号線）建設、国鉄瀬戸線建設、それらに伴う土地区画整理事業等の事前調査として合計12,390㎡にのぼる発掘調査が実施され、Ⅰ期：弥生時代中期、Ⅱ期：弥生時代後期～古墳時代、Ⅲ期：奈良・平安時代、Ⅳ期：江戸時代後期～明治時代初期、という大きく4時期に区分できる複合遺跡であることが明らかになった。本年度は、土地区画整理事業の道路施設の事前調査としてA区・B区・C区の3区合計1,033㎡を発掘調査した。A区からはⅢ期の掘立柱建物1棟、溝1条、Ⅳ期の建物3棟、B区からはⅢ期の竪穴住居跡1軒、C区からはⅢ期の竪穴住居跡1軒、掘立柱建物1棟、Ⅳ期の溝3条、等を検出した。

（松原隆治）



60A区西端柱穴群(東から)



60A区東(南から)



60C区(西から)



勝川遺跡調査区位置図